

特講・福祉心理学 1 (表情の心理学)	単位数	履修方法	配当年次
	1	S	1 年以上
科目コード	FT2601	担当教員	真覚 健

※平成27年9/26・27のスクーリングを受講できる方のみ、8月末までに履修登録をお願いいたします。

■スクーリングで学んでほしいこと

人の顔は個人の識別に用いられるだけでなく、年齢や性別、人柄、感情状態などさまざまな情報を顔から引き出すことができる。これらの情報は対人関係において重要な役割を果たしている。顔の表情は、相手の感情状態を知るための重要な手がかりである。本スクーリングでは、顔の認知と表情の認知について学習する。

■到達目標

- 1) 感情の機能について説明できる。
- 2) 顔の認知の特徴について説明できる。
- 3) 表情の認知の特徴について説明できる。
- 4) 変形など可視的差異のある顔の問題について説明できる。

■スクーリング講義内容

回数	テーマ	内容
1	顔の認知の特徴	視覚パターンとしての顔・顔の認知の特殊性
2	感情の理解	進化から見た感情・感情の種類・感情の理論
3	表情の表出	表情筋・表情表出の生得性
4	表情の認知	表情認知の普遍性・表情認知の発達
5	表情の表示規則	表情表出における文化の影響
6	非言語的コミュニケーションの手がかりとしての表情	非言語的コミュニケーションの種類・対人関係における表情の機能
7	変形など可視的差異のある顔の問題と表情	可視的差異とは・可視的差異のある人の表情
8	質疑応答	
9	スクーリング試験	

■講義の進め方

パワーポイントおよび配付資料をもとに講義を進めます。

■スクーリング評価の基準

授業への参加状況20% + スクーリング試験80%（持込可）。

試験では、とくに顔の認知の特徴と表情の認知の特徴についての理解を問います。

■スクーリング時の教科書

教科書は使用しません。必要な資料は配付します。

■スクーリング事前学習

対人関係において表情がどのような意味・役割をもつか考えてきてください。

対人関係において顔がどのような機能を果たしているか考えてきてください。

■スクーリング事後学習

適切な対人関係をつくるための表情表出について考え、実践してください。

変形などの可視的差異がある顔の問題について考えを深めてください。

■参考図書

ポール・エクマン 『顔は口ほどに嘘をつく』 河出書房新社, 2006年

鈴木直人編 『感情心理学』 朝倉書店, 2007年

■講師紹介

まさめ
真覚 健 宮城大学教授